

## 令和6年度 第2回草津市環境審議会 会議録（概要）

### ■日時：

令和6年8月26日（月）14時00分～16時30分

### ■場所：

市役所8階 大会議室

### ■出席委員：

小林 圭介 委員(会長)、壽崎 かすみ 委員、樋口 能士 委員(副会長)、山川 正信 委員、横田 岳人 委員、井上 忠之 委員、中西 真帆 委員、奥村 真知子 委員、宮城 成和 委員、村北 奈津 委員、米田 吉克 委員、岡 嘉得 委員、柿本 理乃 委員、中井 あずさ 委員、松村 幸子 委員、向井 芳枝 委員、森 毅 委員

### ■欠席委員：

山田 淳 委員、北脇 芳和 委員、磯部 実樹 委員

### ■事務局：

環境経済部	田中部長、太田専門理事、青木副部長
環境政策課	藤野課長、長江係長、関主査、谷主任
温暖化対策室	森下室長、津田係長
資源循環推進課	石松係長

### ■傍聴者：

0名

### ■議題等：

報告事項

- ・第3次草津市環境基本計画の進捗状況の確認について

## 1. 開会、部長挨拶

---

委員の皆様におかれてはご多用の中また非常に連日暑い中ご出席を賜り、また専門部会の委員の皆様におかれては先週に引き続きご出席を賜り、誠にありがとうございます。

本日は令和3年度から令和14年度の計画期間であります、草津市環境基本計画の令和5年度の進捗状況について報告をさせていただき、ご意見をいただくものでございます。

活発なご審議をお願いいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 2. 議事概要

---

### (1) 報告事項 第3次草津市環境基本計画の進捗状況の確認について

資料1	:	第3次草津市環境基本計画	体系図
資料2	:	第3次草津市環境基本計画	達成目標進捗調査票
資料3	:	第3次草津市環境基本計画	関連事業数一覧
資料4	:	第3次草津市環境基本計画	重点事業取組状況
参考資料	:	第3次草津市環境基本計画	関連事業進捗調査票

#### 【事務局】

<資料1～4について説明>

#### 【会長】

事前に資料が送付されていると思うので、一人一人に御意見等をお伺いしていきたい。

#### 【委員】

「環境学習および活動の企画・実施サポート件数」ではイベント自粛により減少していたものが開催され始めたとのことであり、「こども環境会議参加団体数」でも新型コロナウイルス感染症の影響がまだ戻っていないとのことだが、実際どのような状況か。

「愛する地球のために約束する協定者数」の事業者の事務負担が大きいとのことだが、それほど負担となる何かがあるのか。

「生物多様性保全対策の外来生物の捕獲数」について、ヌートリアの被害は発生していないとのことだが、ヌートリアの数が減っているのか。また、アライグマは増えているということか。

「市民1人当たり都市公園などの面積」について、草津市の場合は人口増加が続いているので、公園を増やし続けないと減少傾向が続くが、具体的にオープンスペースの活用等の時代にあった推進と利用方法について具体的な話はあるのか。

#### 【事務局】

新型コロナウイルス感染症の影響で活動ができていないことで、こども環境会議に参加いただ

けない団体があった。4年ぶりの対面開催であったが、これまで参加いただいていた小・中学校や企業・団体のいくつかが参加いただけになった。学校からは、4年間の中断により事業の引継ぎがなされていない部分があると聞いている。全小・中学校に参加いただけるようPRするとともに、過去に参加いただいた企業・団体に対しても参加いただけるように働きかけてまいりたい。

ヌートリアとアライグマに関しては、現基本計画の策定時点では湖岸でのヌートリアの被害が多く捕獲に取り組んでいたが、減少傾向か定かではないが、近年は被害の連絡や目撃情報がないので捕獲も行っていない。アライグマについては、一昨年と比べて昨年は多くの連絡をいただいたので、捕獲をした。

愛する地球のために約束する協定の事務負担については、協定締結の際にどのような取組をするのかの事業計画を提出いただくとともに、その計画に沿った取組の実績を報告いただくこととなっており、特に実績報告が負担となっていると聞いている。

#### 【委員】

目標値の半分近くに留まるものや大幅に下回るなど、目標値と実績値が乖離しているものについても、令和14年度の目標値は見直しをせずに取組を続けるのか。令和14年度の目標値が草津市の目指す姿となっているのかの議論は必要かと思う。

#### 【事務局】

現基本計画の中間年度が令和8年度となるので、中間見直しのタイミングで議論をすることも一つかと思う。いずれにせよ、国などの計画改定を考慮して検討してまいりたい。

#### 【委員】

いつ目標値を見直すのか気になっていた。特に資料2のごみの量については、排出量の目標は達成しており、これ以上取り組まなくてもいいと市民が認識するのはよくないので、より意欲的な目標に変えてもいいと思う。

地球温暖化対策については、国の目標自体が大きく変化しており、現基本計画の策定時点と比べて国が意欲的に目標を掲げている状況においては、今の目標を達成する努力を続けても新たな国の目標は達成できない項目も出てくるかもしれない。中間年度か地球温暖化対策実行計画を策定したタイミングで見直しをするのが大事だと思う。

参考資料4では大多数が概ね計画どおりの進展となっており、やや意欲的でないと感じる。惰性で取り組むことが目標達成にとってよくないので、年度によって重点的に取り組む部分とそうでない部分のメリハリをつけると課題が見えてくると思う。広報活動が実績として挙げられている項目があるが、実施自体は計画どおりであるとしても、広報活動がどのように市民の行動変容や環境改善に繋がったかの評価になっていない。そういう点を見直しながら、概ね計画どおり進んでいるか評価できるように、進めていただければと思う。

#### 【委員】

「こども環境会議参加団体数」について、目標値に大きく届かない状況なのでなかなか厳しい。草津市立の小・中学校では「スクールESD」の取組が始まっており、各学校間においてこども環境会議への出展数に差がある状況であるものの、出展数が少ない学校において出展数が増えて

いくことや、こども環境会議がこどもたちの学習のまとめを市民の方に知っていただく場となることも期待している。一方で、子どもたちも多忙なので、土曜日の開催となると参加が厳しい社会情勢であると感じている。参加団体は増えるが当日参加者は大きく増えないかもしれない点は、気がかりである。

**【委員】**

「環境について学び行動できる地域社会づくり」と「気候変動への対策」が目標に達していない割合が多いと思う。「環境について学び行動できる地域社会づくり」について、高齢化や定年延長により環境活動や地域活動に携わる人が減っていることやその後継者がいないことをよく聞くことから、目標値を達成できない原因の一つとして考えられると思うので、何か対策ができれば件数も増加するのではないかと思う。

「地球温暖化対策に取り組む市民の割合」については、専門部会での議論もあったように、エコアクションポイントを充実させることで市民を巻き込んでいけば、実績値が増えていくのではないかと思う。

**【事務局】**

様々な団体において高齢化が進んでいるのは事実であり、環境分野でもいくつかの団体で活動が困難となっていることも聞き及んでいる。重点事業1「いきもの自然学校」では、これまでに参加いただいた方に運営スタッフに加わってもらっており、このような取組を続けてまいりたい。

**【委員】**

「1人1日当たりの家庭系ごみ量」と「1人1日当たりの事業系ごみ量」に関して、ごみの量が減っていることはすごいと思うが、ごみ袋の大きさが区分されるなど取組の影響もあったのか。町内では、ごみ袋が使いにくくなったという意見もあった。

**【事務局】**

ごみ袋の大きさの変更がごみの量自体に直接的に影響を与えていると言うよりは、昨年10月から焼却ごみ袋に限り直接店舗で購入いただく方式に変更したことによる減量の効果があるものと考えている。ごみ袋の大きさについては、今後より小さいごみ袋を使うことを意識いただくことが、ごみの減量に向かう動機付けにはなるのではないかと考えている。

**【委員】**

「河川の水質における環境管理基準（BOD）の達成状況」に関しては、何度も調査するものの原因不明との結論で、今後も調査することだが、そのような取組の姿勢でよいのか。

「法令に基づいた指導件数」について、特定工場は何か所あるのか。先ほどの河川の水質のような問題があるなら、より立入りを実施したほうがよいのではないか。

進捗報告を聞くと、この目標値の達成に向けて取り組みれば環境基本計画を実現できるといったイメージの報告になっていると感じたが、そうではないと思う。数値で進捗を測ろうと思うとこの方法しかないと思うが、各政策・施策の記載を踏まえて文章で評価することはできないのか。

ヌートリアやアライグマの件も、数を増やそうと思えば捕獲すればいいわけで、行政としてはそういうことではないと思う。

### 【事務局】

「河川の水質における環境管理基準（BOD）の達成状況」については、狼川で追加調査をしているが原因不明という実態であるものの、追加調査を開始した令和4年度と比較してエリアは絞り込めており、特定の支流で数値の上昇があるところまで把握できている。大津市域に含まれる可能性もあり、支流のどこから発生しているかを数値が上昇しているタイミングで捕捉しきれしていない。今年度は、絞り込んだエリアにどのような工場があり、どのポイントで数値の上昇があるのかを詰めて考えていきたい。

特定工場の数は、現在500件程度の登録がある。環境影響が小さい飲食店などは立入りを行うサイクルは長く、大きな事業者で変更届出等が多いところは概ね5年に1度というサイクルで実施しており、立入りの時期は様々だが、年間50件程度実施させてもらっている。

先ほどから御指摘いただいている指標については、行政として目指すべき姿があってそれに応じた指標を決めているが、社会情勢の変化に伴いズレが生じてきている。この数値では測れないと思われるところは、中間見直しの際に検討させていただきたい。

### 【委員】

狼川については、有害物質を使用している特定工場もあると思うので、そういうものと併せて一緒に立入りをしてはどうか。大津市域に含まれるのであれば、大津市も協力してくれると思う。

有害物質の排出を未然に防ぐため、これからどうするのかも考えていただきたい。

### 【事務局】

環境調査において有害物質の検出は現在確認されておらず、健康被害が急激に発生するものではないと認識しているが、環境基準の超過について原因究明に努めてまいりたい。

### 【委員】

外来生物の捕獲数や立入り指導件数などについて、目標値が実態に合っていないと思う部分があったので、指標を割合にすることや、外来生物ならば目撃者数などのサブの指標を設けてもよいのではないかと。環境貢献を謳う企業は多くあるとおもうので、巻き込んで取り組んでいけばよいかと思う。

### 【委員】

「地球温暖化対策に取り組む市民の割合」は下落傾向となっており、世間での環境意識の高まりとは逆方向に推移していることを考えると、補佐的な指標があるとよいのではないかと。

### 【事務局】

目標値に対する進捗については、毎年の市民意識調査により把握している。気候変動対策に向けて身近な取組をされている方は多いとは思いますが、「地球温暖化対策に取り組んでいるか」という質問に何となく敷居の高さを感じられることにより、実態を把握しづらいということもあるかと考えている。引き続き、地球温暖化対策への取り組み方などの啓発を行うとともに、中間見直しの際に、市民意識調査における質問方法についても検討してまいりたい。

### 【委員】

参考資料4のNo.45【不用品バザー】とNo.49【親子での取組】が気になった。以前は小学校で不

用な制服のバザーがあったが、コロナ以降はなくなってしまっている。アルミ缶の回収も廃止されて復活もしていないと思う。こども園や小学校を巻き込んだ活動は、保護者は手間がかかるので忌避する傾向にあるので、いったんやめてしまうと何らかの働きかけがないと復活は難しいと思うが、対策を考えておられるか。

エコアクションポイントについては、以前チラシをいただいたが、内容がわからずポイントも集めることもなかった。友人に聞いても「何？」という返事が多かったように思う。市民として環境を意識して行動しているかと問われたときに、「している」とはっきり答えるのは困難だと思う。ごみの水切りなど自分にとって普通のことである場合は、「している」という回答は出てこないで、こういう取組をすれば環境に配慮しているといった目安のようなものを周知してもらえれば、市民は「している」と答えられると思う。人間褒められるとやる気になると思うので、周知方法を工夫してもらえると、指標がより良くなるのではないか。

#### 【事務局】

コロナ禍により活動をやめてしまった団体が戻ってこられない状況の中で、団体数が近年減少しているのが現状である。再開に向けて何が必要かの聞き取りを行いながら、活動の再開をお願いしていきたい。提出書類の数を減らすなどの先進事例を研究し、なるべく団体の負担を軽減しながら活動を再開していただける体制をとってまいりたい。

エコアクションポイントについては、市民への周知不足を感じたので町内会加入世帯を対象にチラシの全戸配布をしたところ、前年度と比較して申請件数が100件以上増加した。専門部会においても、市民に手軽に取り組んでいただけるよう、エコアクションポイントを中心に据えた取組を進める方向で審議いただいている。先ほど御意見をいただいた、自身の取組と省エネの関連を認識するという視点を交えながら、意見交換をさせていただきたい。

#### 【委員】

資料2の令和5年度の成果の欄の内容について、要因に対する今後の方向性があまり見えない。特に「法令に基づいた指導件数」の前年度との比較については、数字の推移が記載されているだけで、だからどうだったのかがわからない。

参考資料4については、「概ね計画通りの進展」の評価が一番多かった一方で、基本方針ごとの指標では目標値を達成していないのがほとんどであり、計画自体に問題があったのではと率直に感じる。「概ね計画通りの進展」を選びやすいとは思いますが、基本方針ごとの指標と関連させて、より計画が前進するような内容の報告書を作成いただければと思う。

4歳の子どもを育てる母親としては、身軽さがないと取り組めないのが率直な感想で、これをしたから少しは取り組めたと感じる事ができればよいと思う。保育園でのオムツの無償配布に甘えて、より多くごみを出しているような気がしている。オムツの配布数の推移を出していただくことで、ごみの削減に取り組んだことがわかるかと思う。話題から逸れるが、健全な時期のオムツ外しも大事であり、自身で購入していたらオムツを減らそうと思えるが、無償配布によりトイレトレーニングをしない家庭も増えているので、普段の生活に絡めて環境への取組を具体的に伝えてもらいたい。

## 【事務局】

目標値については、わかりやすい評価となるよう検討し、設定させていただいている。中間見直しをさせていただく場合は、実態と乖離している部分について検討させていただきたい。

オムツの件については、担当部署に御意見を伝えさせていただき、改善を検討してもらうように話をさせていただきたい。

## 【委員】

参考資料4のNo.12【エコスクール実践校】について、2校が取り組んでおられるとのことだが、他の学校では環境学習に取り組んでいないのか。

No.22【環境学習プランナー】の廃止した理由を教えてください。

No.86【水洗化便所等改造資金融資制度】の新規実績件数が0件となっているが、工事業者に制度を周知することで、工事の際に市民にも伝わるのではないかと。

No.93【ブロック塀等改修促進補助金】も生垣設置の実績がないとあるが、維持管理への懸念から生垣の設置が進まないのかと思う。こうすれば地球に優しいということを知ってもらうことで生垣の設置が促進されるかもしれないので、市民に対する働きかけをしてもよいのではないかと。

No.102【ポイ捨て防止に関する条例に基づく啓発】とNo.103【ボランティア清掃】に関して、環境に対する意識が低い方に対してどうすれば意識づけできるかを考えていただきたい。大人になってから意識を変えるのは難しいので、子どもの年代において環境に配慮する意識を定着させることが大事だと思う。

## 【事務局】

No.12【エコスクール実践校】については、こども環境会議においてほとんどの小・中学校が環境活動を実施したことを報告いただいているので、2校以外の学校が環境学習をしていないわけではないと思う。

No.22【環境学習プランナー】については、地域の環境活動に取り組む人材育成を行う事業であり、以前は市全域で実施していたが、現基本計画では、重点事業1「いきもの自然学校」においてモデル地区を設けて順次取り組むこととしている。廃止としているものの、事業の手法を変更させていただいたものと御理解いただきたい。

No.86【水洗化便所等改造資金融資制度】については、御意見を担当課に伝え、改善に向けて検討してもらいたいと考えている。

No.93【ブロック塀等改修促進補助金】についても、御指摘いただいたように環境への配慮と絡めて取り組めないか考えていきたい。

No.103【ボランティア清掃】については、意識の高い人以外の人には取組を周知してまいりたい。ポイ捨ては減少していると感じるものの、人目につかない場所では見受けられる。ボランティア清掃やポイ捨て防止活動に取り組む方が増えることがポイ捨ての減少に繋がると思うので、ゴミ問題を考える草津市民会議などの皆様と協働しながら、少しずつ取組を進めていきたい。

## 【委員】

ごみの量が減っているのは、ごみ袋の有料化によるものだと思う。ごみの分別にも意識を持つ

てもらえるようになったと感じている。各家庭に応じた大きさのごみ袋を購入されることで、ごみの減量に繋がっていると思うので、令和6年度の数字を楽しみにしている。

町内のバス停の下にたばこの吸殻が捨ててあるので、町内会で月1回掃除をしているが、本当に見かけなくなった。掃除をする姿を見ていただくことがポイ捨ての抑止となるよう、毎月実施している。

また、町内ごとの廃品回収についても、奨励することでごみの減量ができるように、ごみ問題を考える草津市民会議として取り組んでいきたい。

#### 【委員】

最近では町内会からの脱退により広報やチラシをもらっていない家庭も結構おられるので、そのような方たちをいかに巻き込んでいくかも重要であると思う。若者たちに伝えられるよう、SNSを活用するなど周知の仕方も豊富になればよいと思う。

#### 【委員】

進捗状況の確認における一番のポイントは、「課題および改善策」である。「河川の水質における環境管理基準（BOD）の達成状況」において、過去10年は基準を超過しているが、常に改善策は原因究明となっている。本気で原因究明をする気はあるのか疑問に感じる。河川監視の強化や規制対象の事業者の排水調査に努めるのは当たり前で、これまで追加調査による汚染エリアの絞り込みや発生源の特定を継続してきても原因究明ができていないのであれば、より突っ込んだ対策をしていただきたい。過去10年間の調査結果から、何らかの傾向がわかるのではないか。河川流域のほとんどで下水道へ接続されていることから、浄化槽の影響もほとんどないと思うので、他の影響があるのではないか。

「愛する地球のために約束する協定者数」も増えていない。目標値には倍近く増やさなければならぬが、資料に記載の改善策では達成できないのではないか。協定を締結した事業者にメリットがなければ、協定者数は増えないと思う。また、協定を結んでもらいたい事業者への重点的な働きかけも重要ではないか。

重点事業3「環境イノベーション」について、単にセミナーを開くぐらいで、事業者が乗り気になるのか疑問である。コンサルや中小企業診断士を派遣するなどの支援が必要ではないか。

#### 【事務局】

河川の水質調査については、最近になって追加調査を開始し、少しずつポイントを絞り込んできたところであり、スピードが遅いと御指摘いただいているので、できるだけ原因究明ができるように努めてまいりたい。

「環境イノベーション」については、元々高いハードルだと認識しており、どこの市町村も進めることが難しいという状況であるが、それでも少しでも進めるためにセミナーを開催している。さらに情報収集をしながら進めてまいりたい。

「愛する地球のために約束する協定者数」については、精神論では協定者数の増加には結びつかないというところで、次期温暖化対策実行計画策定に関する専門部会の議論において、協定を締結することで国・県の補助金や市の支援を受けやすくなるような仕組みを盛り込み、インセン



タイプに繋げることで、一緒に地域の温暖化対策を進めていくような好循環を目指していきたい。中間見直しの際に目標値の設定や進め方について検討してまいりたい。

**【副会長】**

基本計画の進捗状況に関する評価方法や目標値について、現実とのズレが生じていると思う。策定当初はシンプルでわかりやすい指標を設定したが、実際に取り組むと、既に達成して次の目標がないことや、これで目標を達成したとしていいのかのような疑問が生じてきた。事務局からは、中間見直しの際に検討する旨の説明があったが、令和8年度に見直すとするならば、事前の議論を来年度にしてはどうか。

「河川の水質における環境管理基準（BOD）の達成状況」について、水質と水量を合わせた総量負荷で評価した場合に、いつ頃が高いのかが気になった。瞬間的に高くなるのか、季節的に高くなるのかについても気にしている。高い傾向にあるタイミングで、集中的にデータを採取する必要があると思う。また、あるポイントで高くなっているのか、面的に高くなっているのかも気になる。

参考資料4のNo.58【交通安全対策事業】において透水性舗装整備の実績がないとのことだが、将来的に、いかに水を集中的に河川に流れないように地域全体で受け止めるかを考えることができればいいと思う。

**【会長】**

環境基本計画に関する自己評価を毎年実施しているのは、私が知る限り、おそらく全国的に草津市だけだと思う。本日、委員の皆さんから御意見をいただいたので、事務局もこれを真摯に受け止めて、取組を進めてもらいたい。

### 3. その他

---

**【事務局】**

次回の審議会は10月下旬を予定しており、開催日の1か月前までに御案内させていただく。

また、次回の地球温暖化対策実行計画専門部会は、10月中旬を予定しているので、日程の調整をお願いしたい。

現在、専門部会において次期計画について御審議いただいているが、環境審議会委員の皆様の御意見も頂戴したく、主要な章の案について、9月中旬ごろに書面による意見照会をさせていただきたい。本来であれば、会議内で御意見を頂戴するところであるが、計画策定のスケジュールの都合上、書面での照会となるので、御容赦いただきたい。

## 4. 閉会

---

### 【副会長】

環境関連の行事がコロナ前の状態に復活しないのは、人材不足が大きな要因であると思う。社会全体で人材不足が続くなかで、草津市では多くの環境に関する事業を実施されている。今後、市民と市役所の両方で人材不足となってくると、優先順位をつけて取り組む時代が来るのかもしれない。現基本計画が終わる令和14年度以降において現在の取組のいずれを残すのか、足りないものは何かを早くから検討する必要があると思う。今日の議論で、選択と集中が必要な時代となってきたことを痛感した。

長時間の議論となったが、できるだけ多くの意見を取り込んで、より良い中間評価につなげていただきたい。

### 【事務局】

これをもって、令和6年度第2回草津市環境審議会を閉会させていただく。御意見を踏まえ、できるだけ改善をさせていただく。出席していない部署にも、御意見を伝えさせていただく。